



も り

北の森林 国有林

写真：アズキナシ（野幌自然休養林）

今月のトピック

- ・北海道森林管理局の重点取組事項

5

2020
No. 53



国民の森林・国有林

林野庁 北海道森林管理局



北海道森林管理局の重点取組事項



北海道森林管理局は、北海道の土地面積834万haのうち、約4割にあたる304万haの国有林を管理しています。

その8割近くを天然林が占め、世界自然遺産である知床をはじめ、原生的な森林には、希少な野生生物が生息するなど、学術的にも価値の高い森林が数多く広がっています。

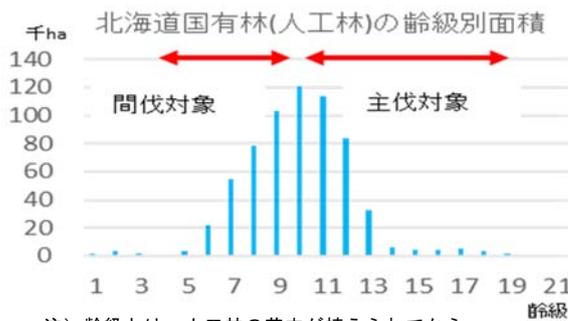
一方人工林では、戦後植栽されたトドマツやカラマツ等が資源として成熟し、林業・木材産業の成長による地域振興や循環型社会の構築への貢献が期待されています。

北海道森林管理局は、今年度の事業について、技術、成果等の「見える化」をテーマに以下の事項について重点的に取り組みます。

天然力を活用した多様な森林づくりの本格的な実施

道内の人工林はトドマツ、カラマツ等、針葉樹が主体で間伐期から主伐期に移行中ですが、中には自然に生えた広葉樹が交ざった森林が多く見られます。

このような現況の人工林が国土の保全や水源の涵养など森林の有する公益的機能を持続的に発揮できるように、今年度より全ての主伐箇所「天然力を活用した多様な森林づくり」を進めていきます。



注) 齢級とは、人工林の苗木が植えられてから、1~5年生を1齢級、6~10年生を2齢級・・・としたまとまり

これにより、人工林に生育する広葉樹を活かすつ、主伐と植栽を進め、多様な樹種、林齢からなる森林へ誘導し、森林の公益的機能を発揮させるとともに、北海道ならではの多様な樹種の供給を目指します。

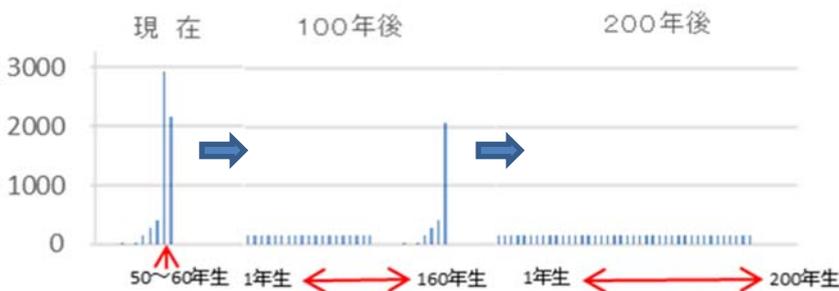
パイロットフォレストの超長伐期化



黄葉（おうよう）するパイロットフォレスト

パイロットフォレストは、かつて「不毛の大地」と呼ばれた荒野を先人たちが不断の努力と挑戦を積み重ね、昭和31年から北海道の東部、別寒辺牛川の上・中流部に計画的に造成し、現在カラマツの人工林約6千haが見事に育っています。この広大な人工林において、主伐と植栽を天然力の活用も図りながら計画的に進め、齢級構成の平準化を図りつつ、最終的には二百年生の超長伐期化(大

径木化)を目指す取組に着手します。今年度は、長伐期に適した箇所を把握するために現地の調査を行います。



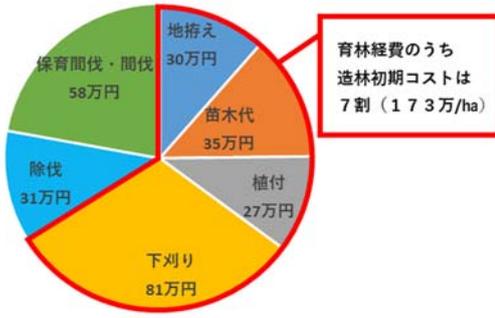
6000haを毎年30haずつ伐採し、植栽すると、200年後には樹齢構成が平準化する

超長伐期化は、森林の公益的機能の更なる発揮とともに、毎年度の多様な樹材種の安定した供給と、事業量の安定した確保を可能と

する、森林・林業の成長産業化に必要な取組と考えています。

森林整備におけるコスト削減（下刈りゼロを目指した取組）

森林整備コストのうち、地拵え（じごしらえ）から下刈りまでに必要な、いわゆる初期コストは全体の7割を占め、さらにそのうち下刈りが半分を占めています。



森林整備コストの内訳

森林整備コストを削減するためには、下刈りにか

かるコストを抑制することが欠かせません。

このため、主伐時に使用した林業用機械をそのまま地拵え・植付けに使用する一貫作業の導入を図っています。例えば伐採用のグラップルを地拵え用のレーキに付け替え、苗木の成長を阻害する笹等の根茎を切断するとともに、草本類の発生を抑制します。これにより、下刈りの手間とコストを低減することができます。

また、植栽後の苗木の成長を早め下刈りコストを低減する取組を行っています。成長を早めることによって苗木は他の草本類に阻害されることなく太陽の光を受けられることができ、下刈りの作業をより早く完了させることができます。具体的には、優れた初期成長を確保するため、緩効性肥料（長く効果が持続する肥料）が含まれたコンテナ苗を実証的に植栽することなどとしています。

併せて、コンテナ苗は植え付けが可能な時期が裸苗より長いという利点もあります。

一方、コンテナ苗は実証的な取組がはじまったばかりで民有林も含めた本格的な普及はこれからです。



コンテナ苗の育苗施設



トドマツのコンテナ苗

このため当森林管理局としては、コンテナ苗生産業者と2〜3年にわたる長期需給協定を締結し、生産業者が計画的にコンテナ苗を生産できる環境づくりも行っていきます。そのほか、低コストでコンテナ苗を生産できるようにカラマツのコンテナ苗の出荷までの育苗期間を1年に短縮した苗

木の植栽などを行っています。

また、下刈りが必要な箇所では、大型機械による下刈りが可能な地拵えや植付け様を検討します。これらの様々な取組を通じて森林整備コストの削減の実現を目指しています。

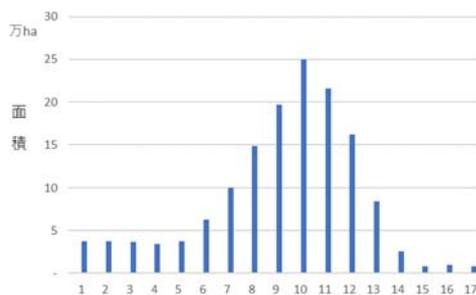


大型機械による下刈り

大径材の高付加価値化に向けた取組（サプライチェーンの構築）

北海道の人工林は、約148万haあり、都道府県別にみると全国第1位の面積を有しています。その多くは戦後に植栽されたもので、その齢級構成は釣り鐘型のいびつなものとなっています（グラフ参照）。この豊富な森林資源を活かし、北海道の林業の成長産業化を実現するためには、齢級

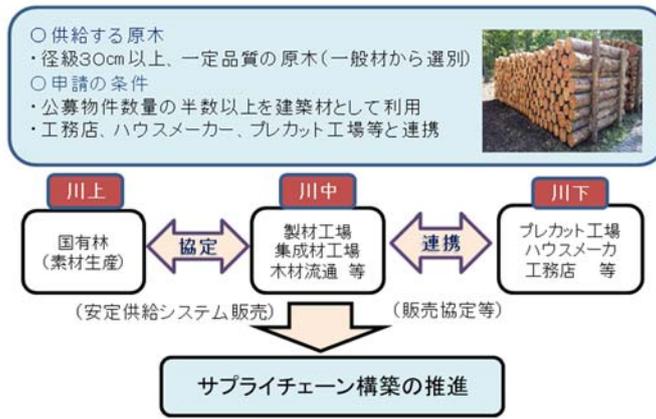
構成を平準化し将来にわたって木材を安定的に供給していくことが必要であり、そのためには、今後、人工林の高齢化に伴い供給が見込まれる大径材が、市場での製品価値が高い建築構造物材として利用されることが重要です。



北海道の人工林の齢級別面積

このため、当森林管理局では、「安定供給システム販売（以下「システム販売」）」において、カラマツやトドマツの大径材のうち、腐れがなく、節、曲り等の欠点が少ない軽微な原木を、価値の高い建築材として供給する取組を実施します。システム販売とは、国有林が木材を協定に基づいて需要者に安

定的に供給するものです。システム販売物件の公募にあたっては、「物件数量の半数以上を建築材として利用すること」、「工務店、ハウスメーカー、プレカット工場等と連携すること」を協定の条件としています。



この取組により、大径材の高付加価値化を図るとともに、素材生産を行う「川上」から製材工場などの「川中」を経て工務店等の「川下」に至るまでのサプライチェーンの構築推進を目指します。

エゾシカ捕獲対策の推進

エゾシカによる農林業被害は平成23年をピークに被害額と生息数が減少傾向にあります。依然として高水準で推移しています。被害を受けている市町村に国有林を有害鳥獣捕獲の場として積極的に提供するとともに、国有林においても捕獲事業を継続して実施します。

併せて、捕獲したエゾシカのジビエ利用促進のために、大型囲いワナで生け捕りし、養鹿などに供給する取組も進めています。



給餌による誘引箇所の設置

また、今年度から職員による「くくりワナ」を用いた捕獲に取り組みとともに、市町村等へ「くくりワナ」

の貸し出しを行い、農家などによる捕獲を支援します。



大型囲いワナによる捕獲

アイヌ文化振興への貢献

本年開園予定の白老町のウポポイ（民族共生象徴空間）に隣接する、ポロト自然休養林をアイヌ文化を象徴する森林として育てていくため、休養林の4分の1を占めるトドマツ人工林を北海道の森林の元来の姿である二百年〜三百年生の針広混交林や広葉樹林に誘導する取組を行います。

市町村とともにアイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律に基づく共用林野の設定を新たに進め、イナウの材料となるヤ

ナギの枝やアットウシの材料となるオヒョウニシの樹皮など、アイヌ文化振興に不可欠な森林産物の供給に、地域と一緒に取り組めます。



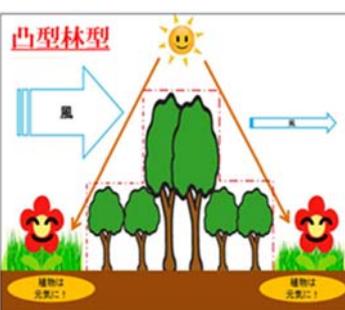
アットウシ(アイヌ衣装の材料となるオヒョウ(樹皮を利用))



イナウ(アイヌ祭具)の材料となるヤナギ

治山事業による山地災害への迅速な対応など

近年、全国で大規模な山地災害が頻発しており、防災、減災、国土強靱化対策の着実な推進と大規模災害



防風林整備のイメージ

の発生時における迅速な調査等の対応が重要です。そのため、ドローンを状況把握だけでなく、現地測量等に活用して、災害箇所を迅速かつ網羅的に調査し、災害申請を行います。

また、北海道開拓時代から住民の暮らしや農地を守ってきた防風林が老齢化しつつあることから、地域の要望を踏まえて整備計画を作成し、隣接民地や農地への落枝や日陰部分の発生により影響を与えている劣化した林縁部を低木に植え替え、さらに、中央部を保全することに機能維持を図るよう、計画的な整備に取り組めます。

これらの取組により、防災、減災、国土強靱化対策を着実に推進していきます。

造林作業の省力化への取組と地域への情報発信

網走西部森林管理署西紋別支署

はじめに

当支署は北海道北東部のオホーツク海側に位置し、紋別市と滝上町に所在する約8万4千haの国有林を管理しています。

沿岸地域の冬期は海面が流水に覆われ、内陸部では最低気温がマイナス20度を超えることも珍しくない環境となります。

気象条件は厳しいですが造林地では風雪に耐えた苗木が成長し、多くの人工林が主伐期を迎えています。

地域の課題

利用期を迎えた森林をしっかりと使っていくためには、伐採・再造林が必要ですが、従来から豊かな森林資源を利用して林業・木材産業が発達してきたこの地域も、林業従事者の高齢化による労働力不足、苗木確保の困難化等、人件費や資材費の上昇もあり、伐採地の更新が困難となっていくことが危惧されています。

伐採跡地の更新を確実に

に進めるためにも、低コスト化及び労力を軽減した造林作業の確立が求められます。



主伐期をむかえたトドマツ人工林

低密度植栽試験地の取組

当支署では平成28年から、造林事業の低コスト化及び省力化を図るため、新たな施業体系の確立を目的に、苗木の植栽本数を減らすなどした低密度植栽試験地を設定しています(図)。苗間を2倍にした疎植(そしよく)(図③)や筋刈りの残幅を2倍にする(図⑤)等のプロットを設定し、植付け・下刈りの作業効率及び植栽木の成長について現地調査・データの収集を行ってきました。

これまでの調査におい



植栽木の成長を調査

て、疎植であっても苗木の成長については大きな影響は見られないこと、残幅を多く取った方が下刈りの作業効率は向上する傾向にあるというデータが得られました。

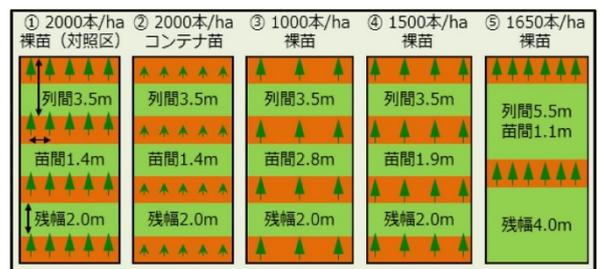


図 低密度植栽試験地の概要

また、筋刈りによる地帯えを実施した箇所の残し幅には広葉樹が数力所に密集して発生している状況が多く見られることを確認しました。今後も植栽木の調査と併せて発生した広葉樹の調査を行い、効率的な森林づくりに役立つデータの収集を進めていきます。

地域への情報発信

低密度植栽試験地の取組等の地域課題については情報紙「にしもん森林だより」で発信しています。また、これらの取組に加え、アンケート調査により地域の情報やニーズを把握し、支署で取り組んでいる事業などと併せて発信しています。

これらの取組を継続・発展させることにより造林作業の省力化へ取り組んでいきたいと考えています。



「にしもん森林だより」の詳細は、QRコードからご覧ください。

こんにちは 森林官です!

上川中部森林管理署
愛別森林事務所
森林官 藤田 尚毅



愛別森林事務所の所在地

愛別森林事務所は、北海道のおよそ中心部に位置する旭川市に拠点をもつ上川中部森林管理署から、車で約40分離れた愛別町に所在しています。



愛別森林事務所

愛別町は、大雪山系を水源とする石狩川の上流で育まれた豊かな自然に囲まれた町で、「きのこの里」として有名です。

毎年9月には「きのこの里フェスティバル」が開催され、愛別自慢のマイタケを使ったジャンボきのこ鍋など秋の味覚を満喫できます。



大雪山系：管内からの眺望

上川盆地の冬の寒さは厳しいですが、町民の方々の暖かいご厚情を賜りながら業務に励んでおります。

森林事務所の業務概要

当森林事務所は、愛別町と比布町にまたがる約15,700ha(札幌ドーム約3,000個分)の国有林を管理しています。

主な業務は、管轄区域内の林野をパトロールし異常の有無を確認する「林野巡視」、植林した樹木を育てるための保育作業等、森林の持つ公益的機能の維持増進を目的とした森林整備事業の「監督業務」、適切な

森林整備に向けたデータを収集する「森林調査」、そしてこれらの事業実行に欠かせない林道等の「点検業務」、など様々な業務を2名体制で行っています。

森林事務所ので好きな仕事

様々な仕事の中でも特に「森林調査」にやりがいを感じています。



森林調査の様子

感じています。

調査箇所は、林道から近場で歩きやすく条件の良い森林もあれば、背丈以上のササが行く手を阻むような森林もあります。

季節によって現場環境は大きく変化し、冬期のスノーモビルやスキーを使った作業に調査の醍醐味を感じています。また、普段なかなか行くことのできない奥深い自然の中で仕事ができ

ることにとってもやりがいを感じます。

もちろん道中に危険を伴ったり(熊との遭遇など)、山歩きも過酷だったりもしますが、その分、仕事を終えた時は大きな達成感を味わえます。

今年は例年と比べ積雪が少なかったため雪解けも早く、林内に雪があり、歩きやすいうちに、少しでも多くの調査ができるよう奮闘中です。

森林官として・・・

初めての森林官業務ということもあり、不安や緊張感もありますが、現場を担う森林官として早く一人前になれるように、数多くの現場へ赴き、管内の状況を把握・熟知し、「何でも知っている森林官」を目指し業務に励んでいます。

また、地域のみならず方から「国有林があつてよかった」と感じてもらえるよう、日々精進しますので今後ともよろしくお願いたします。



釧路湿原森林ふれあい推進センターでは、森林ふれあいの取り組みについて、関係行政機関や関係団体等と連携して行っていますので、その一部を紹介します

木育・森づくりフェア

この催しは、木育の取り組みを通して、協働の森づくりへの関心を高めるため、地域住民の方々に「木とふれあう機会を提供」し、「森林づくりの重要性」や「木の良さ」等への理解を深めていた



ミニツリーづくりの様子

多くを目的として、国有林、釧路総合振興局

森林室や市町村、関係団体等が連携して昨年の10月19日・20日に開催されました。

会場には、釧路管内の

木育・植樹活動を紹介する「パネル・木製品展示コーナー」、木の玉のプールの等で遊べる「木とのふれあいコーナー」、カラマツを使った箱椅子づくりができる「木育広場」、木の葉や輪切り、枝等で木工クラフトが作成できる「木工工作体験コーナー」等、様々なブースが設けられました。

当センターは、根釧西部森林管理署と連携して、マツボックリや枝、木の輪切り等の森林の恵みを材料とした「ミニツリーづくり」を企画しました。

国有林ブースには、親子連れが早々に訪れ、ミニツリーの見本を参考に材料を選び、木工クラフトづくりを楽しむ姿が見られ、用意した席がなかなか空かない状況で、会

場は大いに賑わいました。

くしろ木づなフェスティバル



屋外会場

「お山ん画」の展示や「チエンソーマン」への変身コーナーを企画しました。国有林ブースには、開場直後から次々と親子連れが訪れ、見本でこれから作る作品のイメージを膨らませて材料を選び、「ミニツリー」を作っていました。

今回の森林ふれあいの取り組みも、親子で一緒にクラフトを作る姿が多く見られ、作品が完成した時には皆が笑顔になりました。嬉しそうに作品を持ち帰っていました。

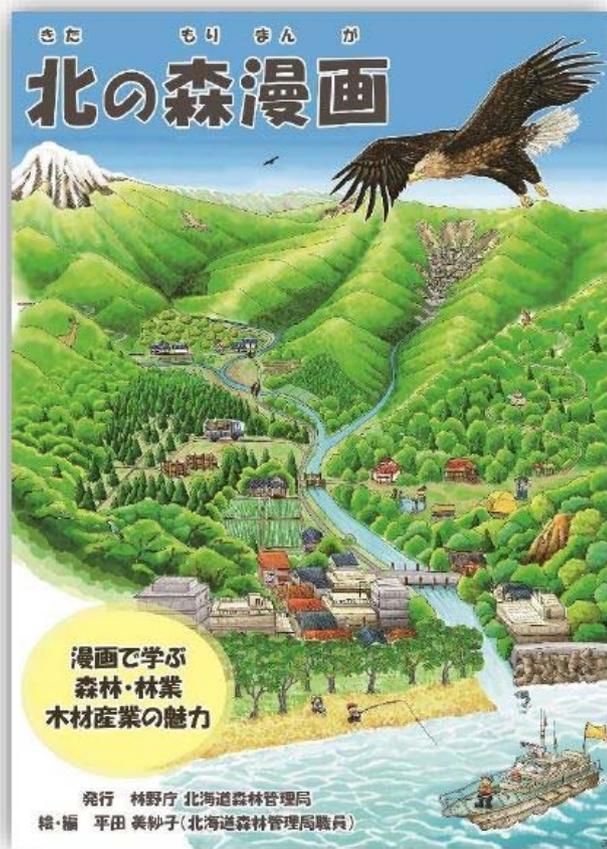
会場に訪れた方々はそれぞれのブースで、木のふれあいを楽しんでいました。



お山ん画を説明中

北の森漫画

漫画で学ぶ森林・林業・木材産業の魅力



発行: 林野庁 北海道森林管理局
絵・編: 平田 美紗子
(北海道森林管理局職員)
フルカラー 全89ページ

林野庁 北海道森林管理局では、森林、林業、木材産業や木の文化をより多くの方々に紹介し、日本の森林・林業の応援団になっていただくために「北の森漫画」を作成しました。

＜本書の内容＞

- ・森林・林業界の裏話を集めた、林業漫画「お山ん画」(全14話)
- ・炭焼き・シイタケ栽培から、林業現場や製材所まで、山の仕事を紹介する職業漫画「人to木(ひととき)」(全18話)
- ・日本人と木の文化を子供の目線で楽しく学ぶ樹木漫画「リン子の絵日記」(全33話)

全ての漫画は、専門家や職人への取材・アドバイスを受け、学術的根拠に基づき北海道森林管理局の職員(平田美紗子)が水彩画で作成しています。学校の教材やイベントの資料としてもご利用いただけます。



北海道森林管理局のホームページにて全ページを公開中です。

林野庁 北海道森林管理局 企画課
住所: 札幌市中央区宮の森3条7丁目70番
TEL(011)-622-5228

もり
広報 「北の森林 国有林」5月号
発行 林野庁北海道森林管理局
編集 総務企画部 企画課
〒064-8537 札幌市中央区宮の森
3条7丁目70
I P 電話 050-3160-6300
電 話 011-622-5213
F A X 011-622-5194

<https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>

今月の表紙
アズキナシは、10m以上、15mになる、落葉高木です。
山地や低地に分布していますが、街路樹にも使われるので、身近な木です。
名前の由来は、実の形が梨に似ているためです。
秋には、赤い小さな実がつきます。
カタスギと呼ばれることもあります。